

海外出版動向 2022

アメリカの書籍出版業界で見られる動き
コロナ禍が残していったもの・奪っていったもの

日本電子出版協会(JEPA)

2022年11月18日(金) 16:00~17:30 大原ケイ

目次

- ・ コロナ禍による「巣ごもり需要」の終わり
- ・ BookTokと書評は何がどう違うのか？
- ・ コリン・フーバー現象の意味
- ・ 出版人のメンタルヘルス
- ・ BEAなき後のブックフェア
- ・ アマゾン書店なき後のインディペンデント書店
- ・ 大手出版のM&Aを米司法省が阻止
- ・ Q&A

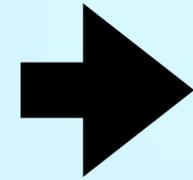
2022年上半期書籍総売り上げ

全米出版社協会(AAP)の発表から

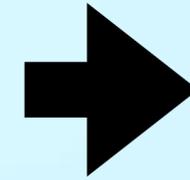
- 55億ドル（前年比で1.6%減） ジャンルでは成人向け一般書が2.6%ダウン、児童書/YAが4.3%アップ
- フォーマットではマスマーケットPBが21.1%ダウン、ハードカバーが7%ダウン、トレードペーパーバックが11%アップ、Eブックが6.9%ダウン、オーディオが4.9%アップ



コロナ1年目
2020



コロナ2年目
2021



コロナ3年目
2022

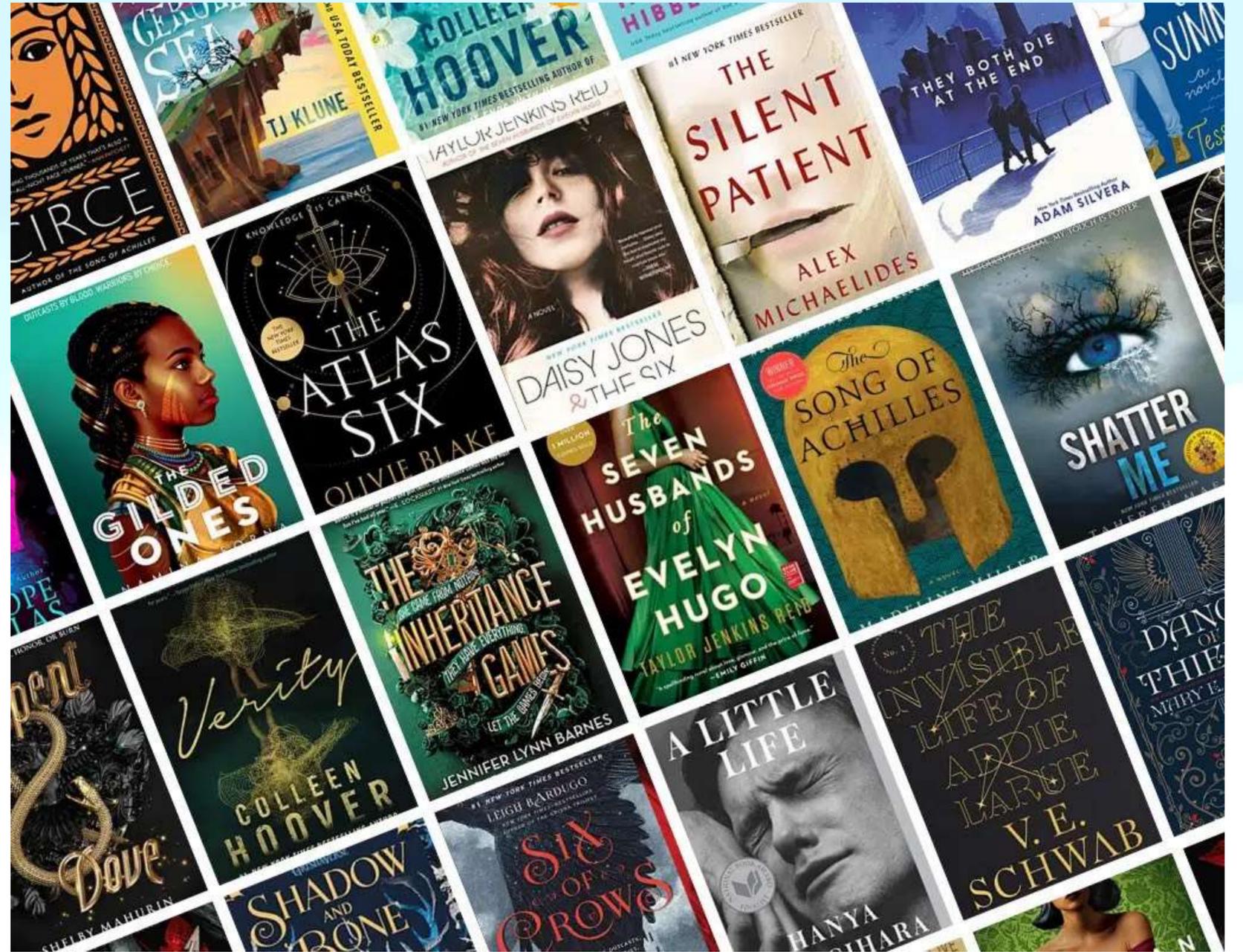
パンデミックにより書店が閉店、リモートワーク、学校閉鎖などによる「お籠り需要」で、オンライン書店、Eブック、オーディオブックが躍進

書店の営業再開、大勢の観客が集まるエンタメは禁止、紙の本を買いに行ける贅沢や読書習慣が見直される。

パンデミックは一旦終了、旅行やイベントなどこの2年間ガマンしていたエンタメに人が戻り始め、インフレの影響も

BookTokと書評は何かどう違うのか？

- パンデミックの初め頃からTikTokで本を紹介する若い女性が増え始め、既刊書がベストセラーになる現象が起こった。
- ブログ、YouTubeといったSNSでも本は紹介されているが、何が違うのか？
- 日本でも似たような現象？



Colleen Hoover現象の意味



- 2012年にキンドルでのセルフパブリッシングから始めてS&Sで3部作に。
- その後もセルフで短編集や、ロマンスを出している。
- 2016年刊のIt Ends With Usが去年からBookTokで爆売れ。

出版人のメンタルヘルス

- Great Resignationと呼ばれた日
- 中間管理職としてのエディター: インフレ、伸び悩む給与・昇進体制
- コロナ禍による家事負担増、華やかな楽しみの部分を奪われたことも一因？



ブック・エキスポなき後のブックフェア



- 迷走の挙句、パンデミックを理由に廃止となったBEA
- 元々”インターナショナル”な側面はなかった
- ABAウィンター・インスティテュート、ALAの年次総会、Comic-Con、各地のブックフェスティバルに分散

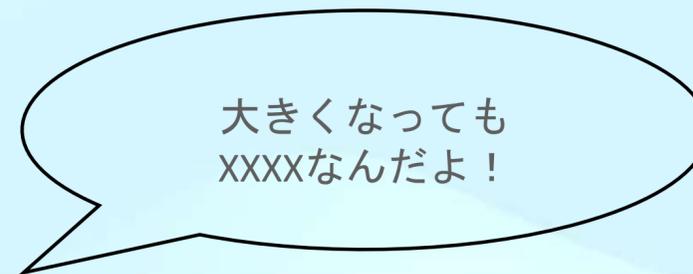
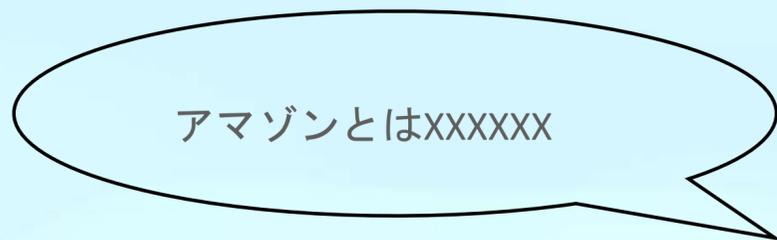
アマゾン書店なき後のインディペンデント書店

- 3月に全24店を閉店、6年半に及ぶ実験をいきなり終了、影響はnegligible。
- ジェフ・ベゾスCEO後、アマゾンにおけるブックストアの立ち位置
- ガジェットの見直し、キンドルへの影響



大手出版社のM&Aを米司法省が阻止

ペンギン・ランダムハウスCEOが思わず漏らした本音



Big 6

ランダムハウス（独ベルテルスマン）

ペンギン（英ピアソン）

ハーパーコリンズ（米ニューズコーポレーション）

サイモン&シュスター（米ヴァイアコム）

アシェット（仏ラガルデール）

マクミラン（独ホルツブリンク）

2013年にBig 5に
（オバマ政権）

2020年にS&S売却話
（トランプ政権）

2021年に司法省が訴追
（バイデン政権）

Q & A